

ナルニア国物語

魔術師のおい

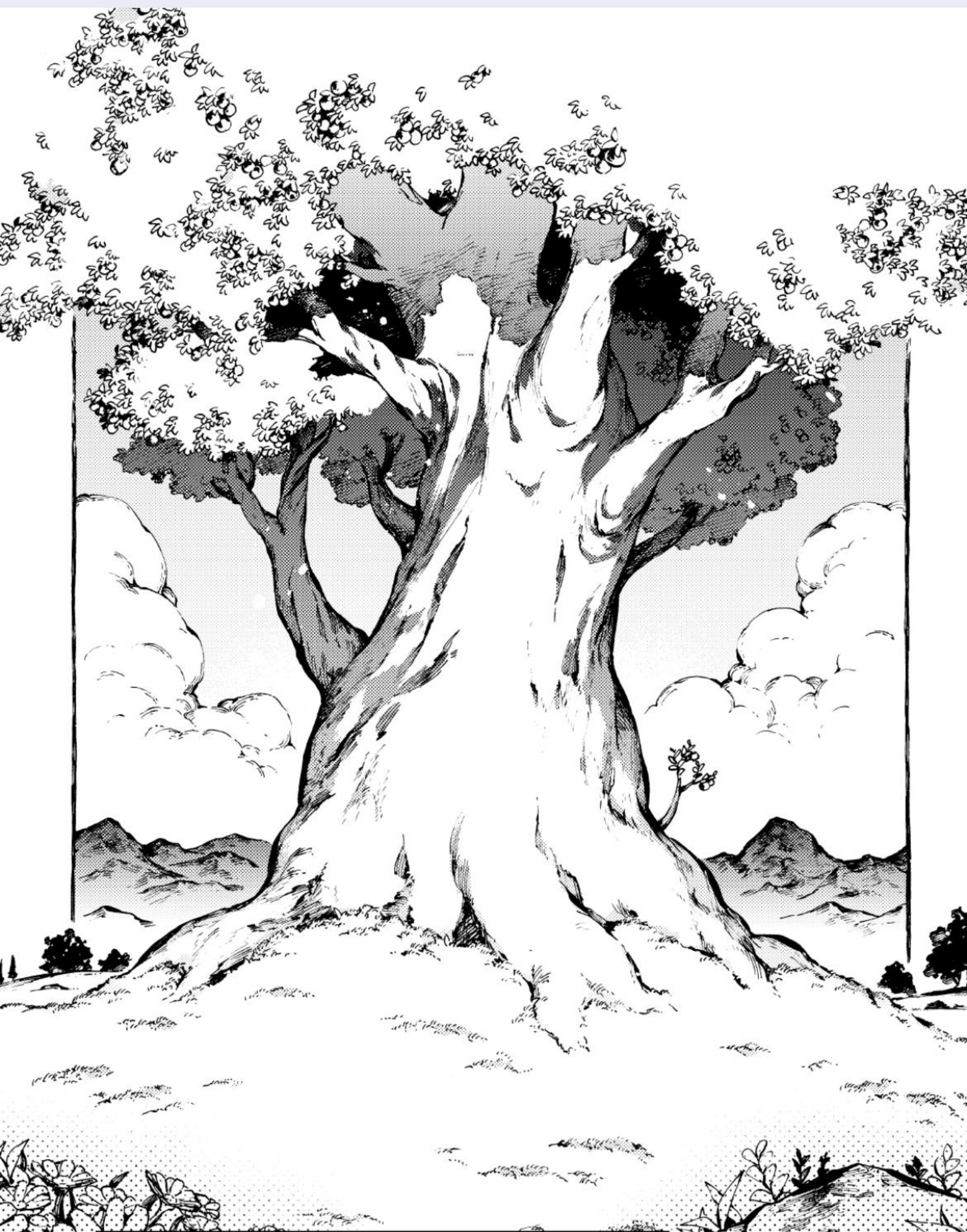
27

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

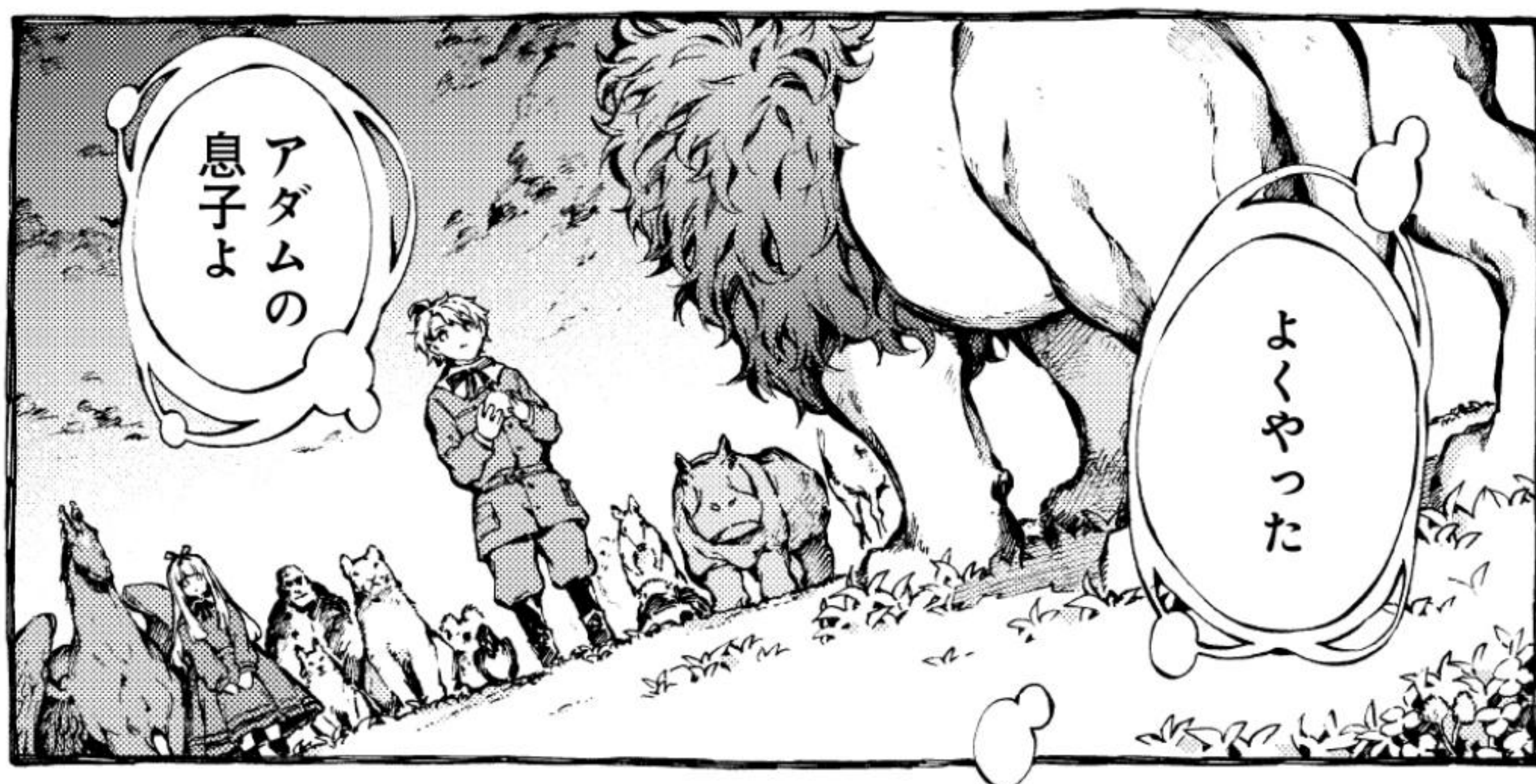


第27話 リンゴを植える(前編)





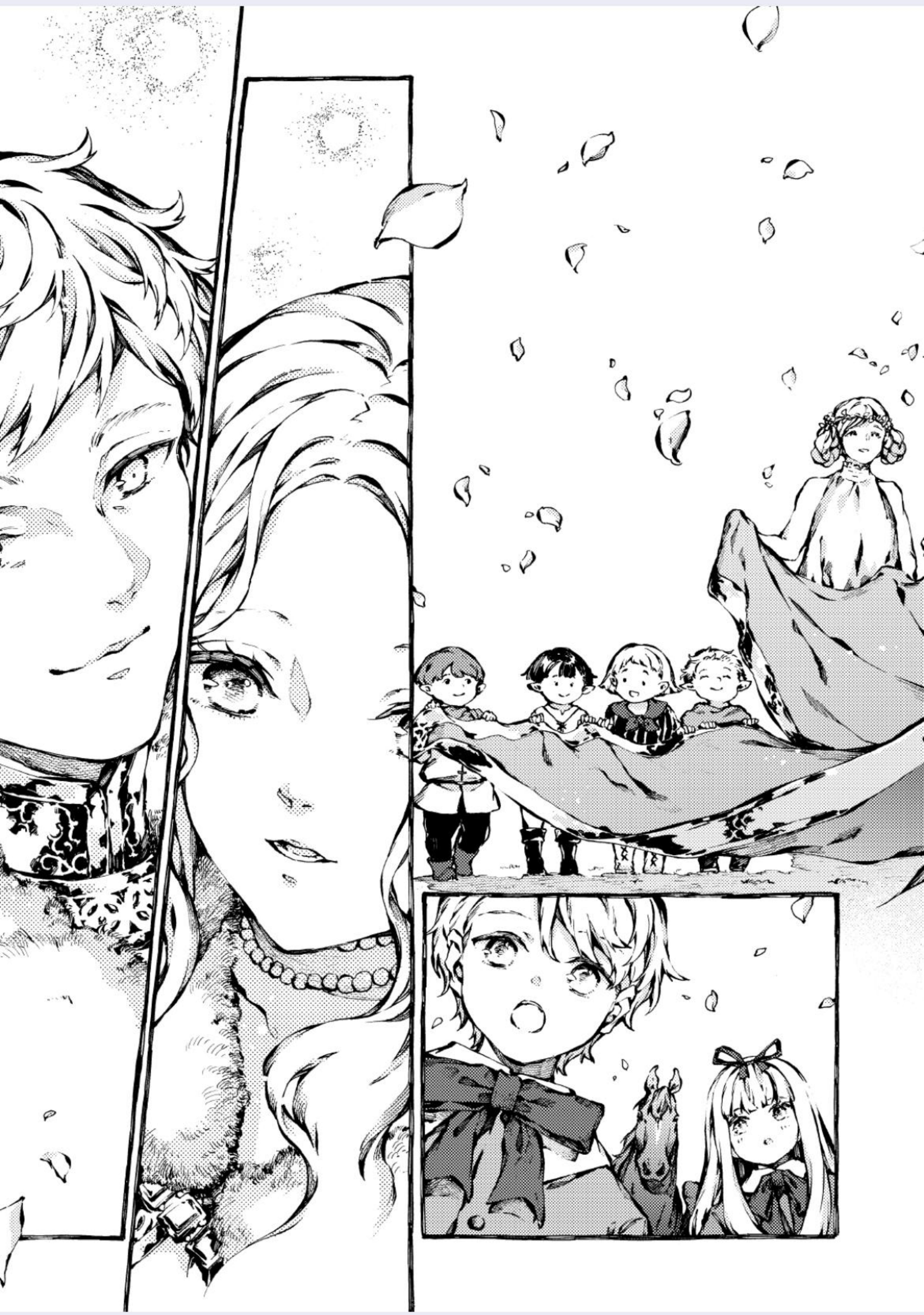
よくやった



















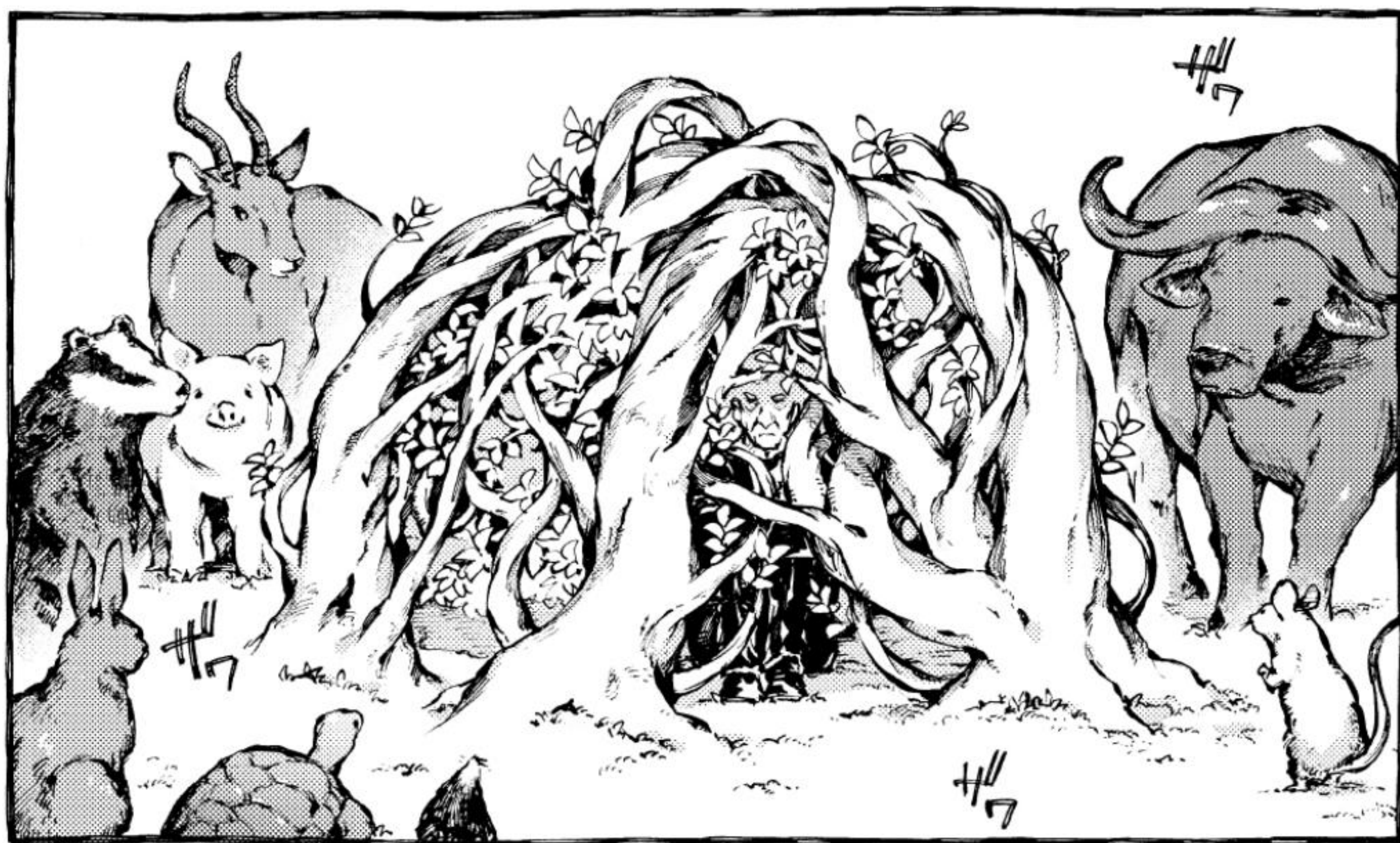
時は
さかのぼりー

アンドリュー
伯父さんだ！

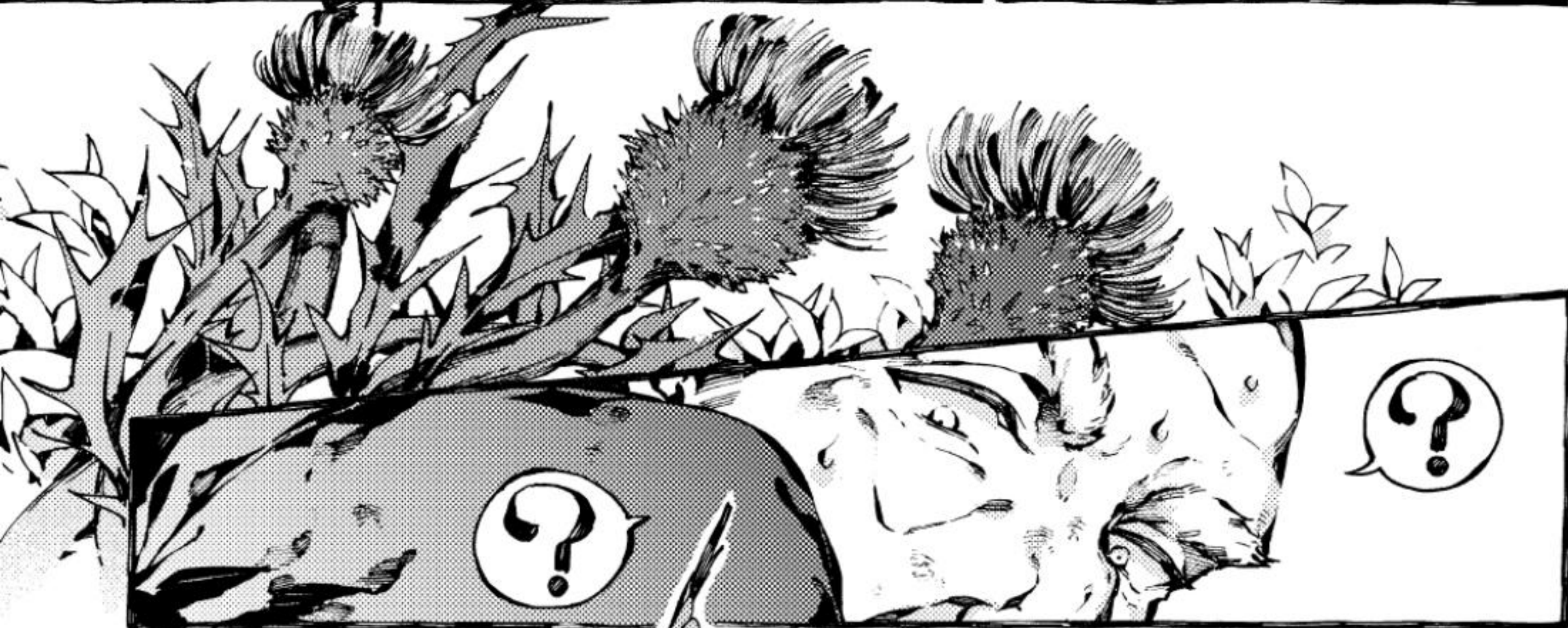
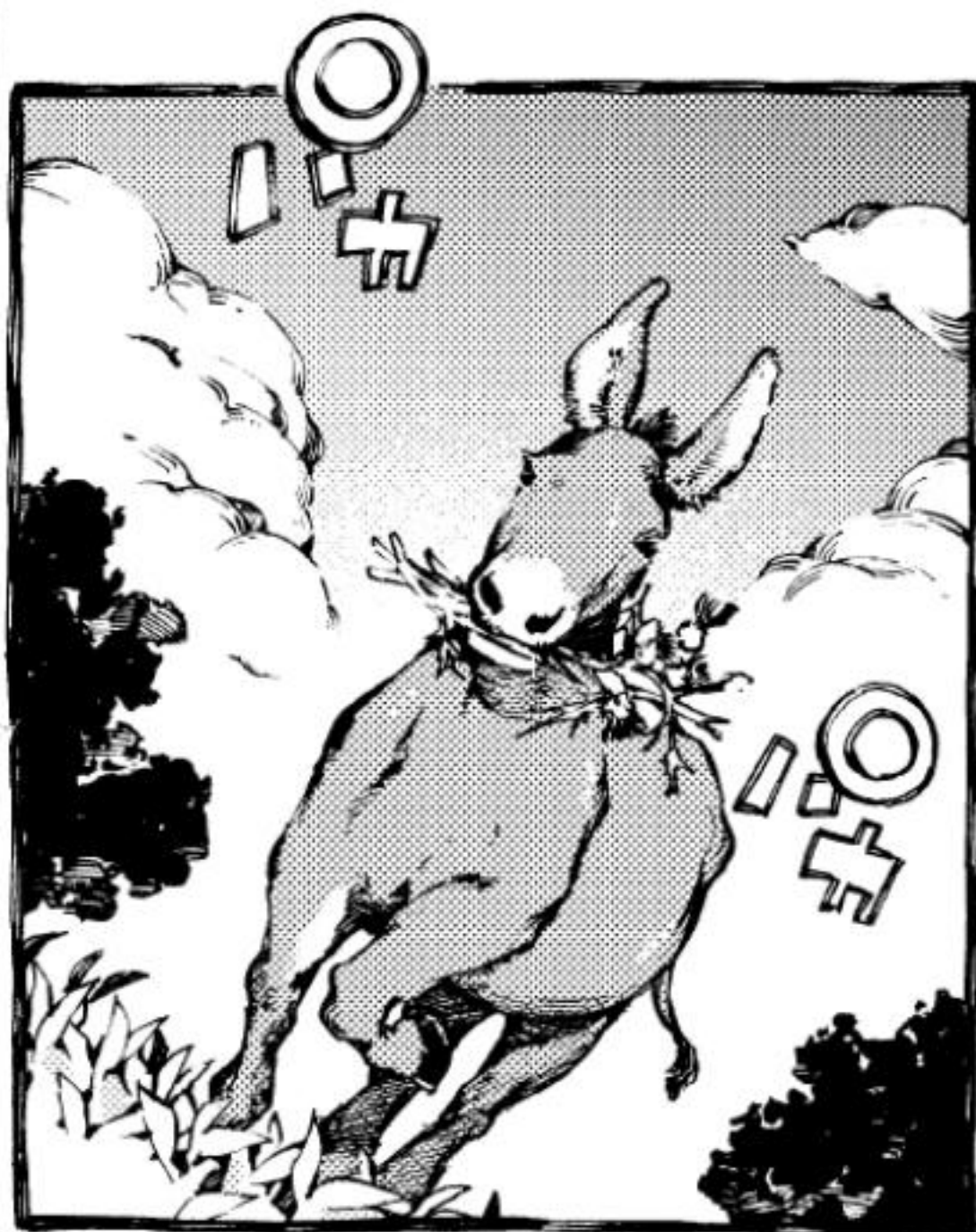


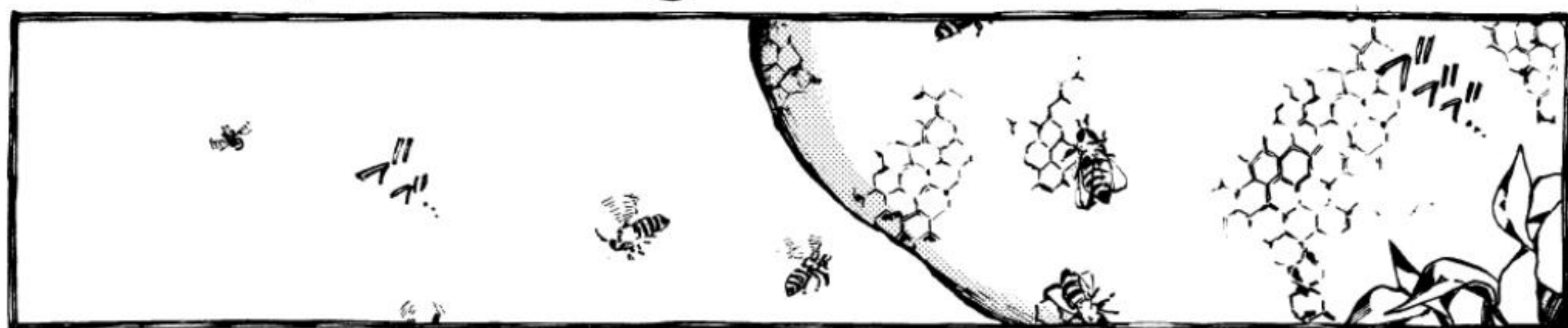


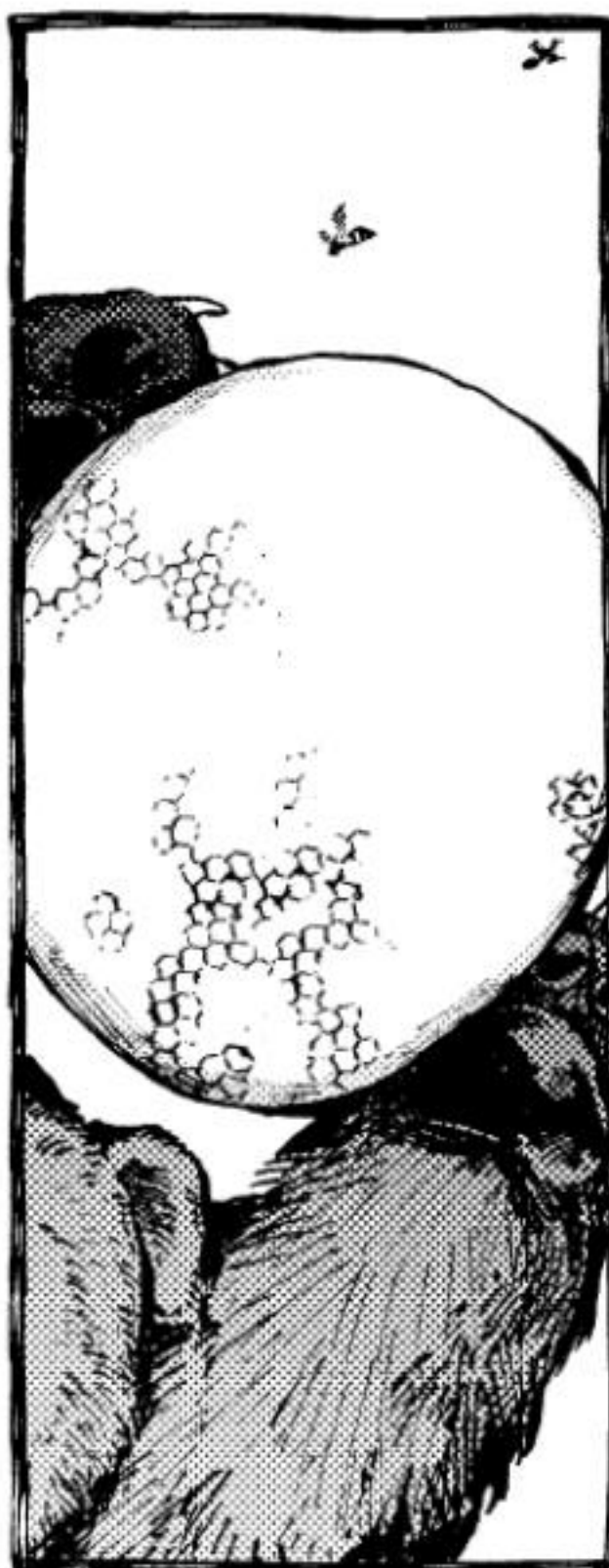
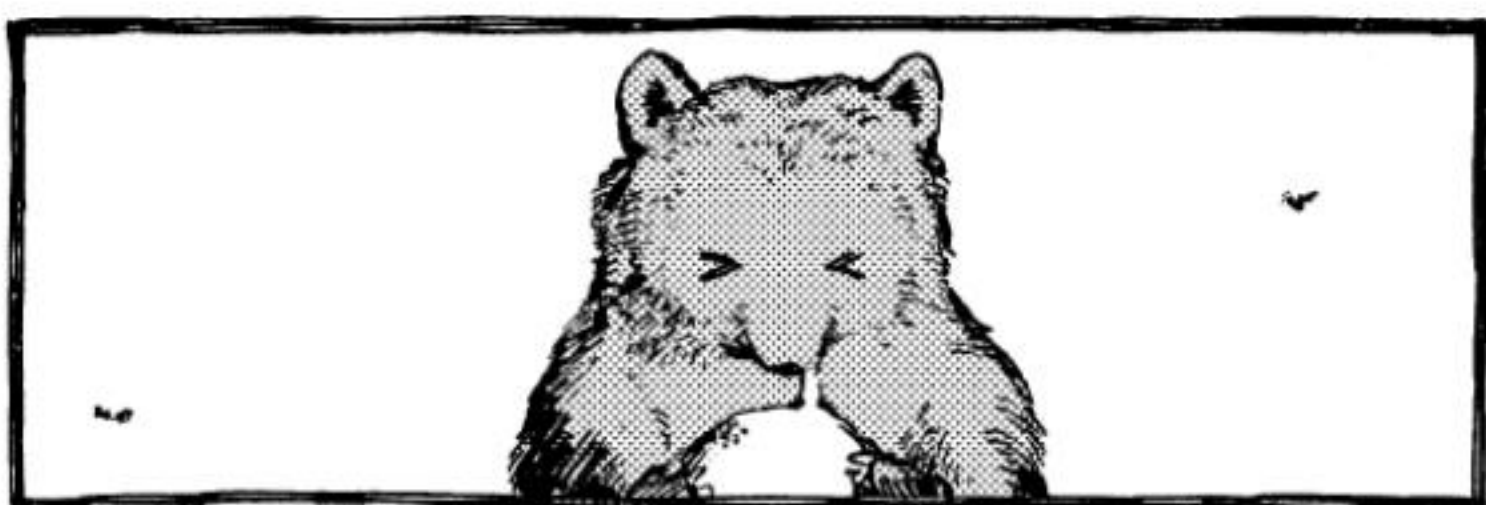
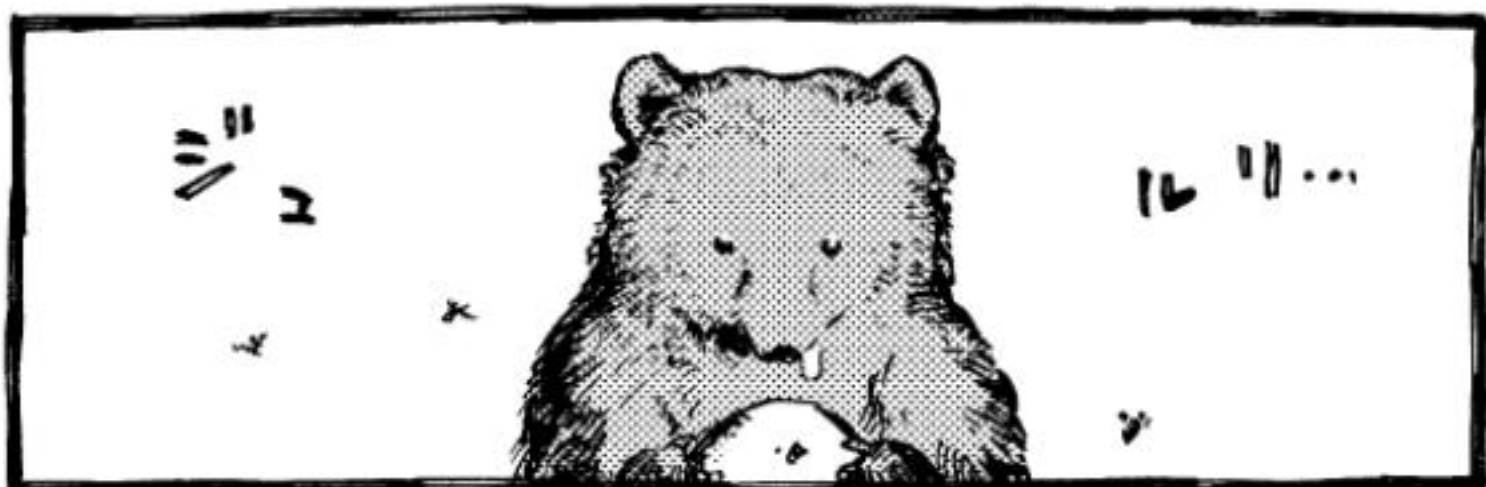
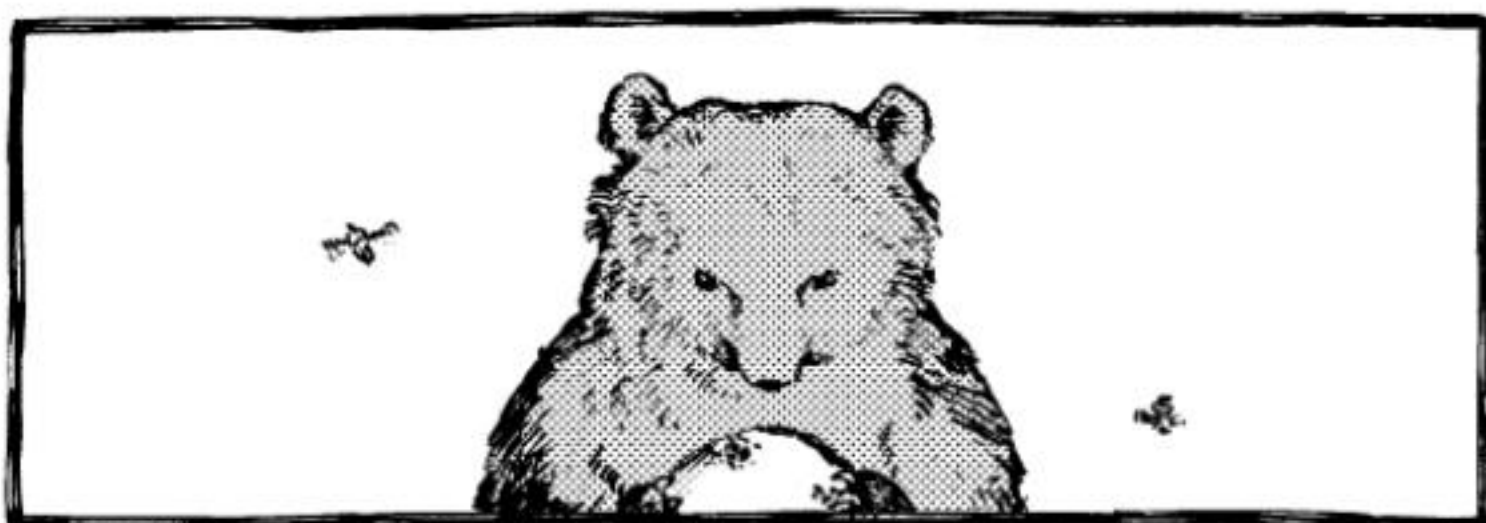




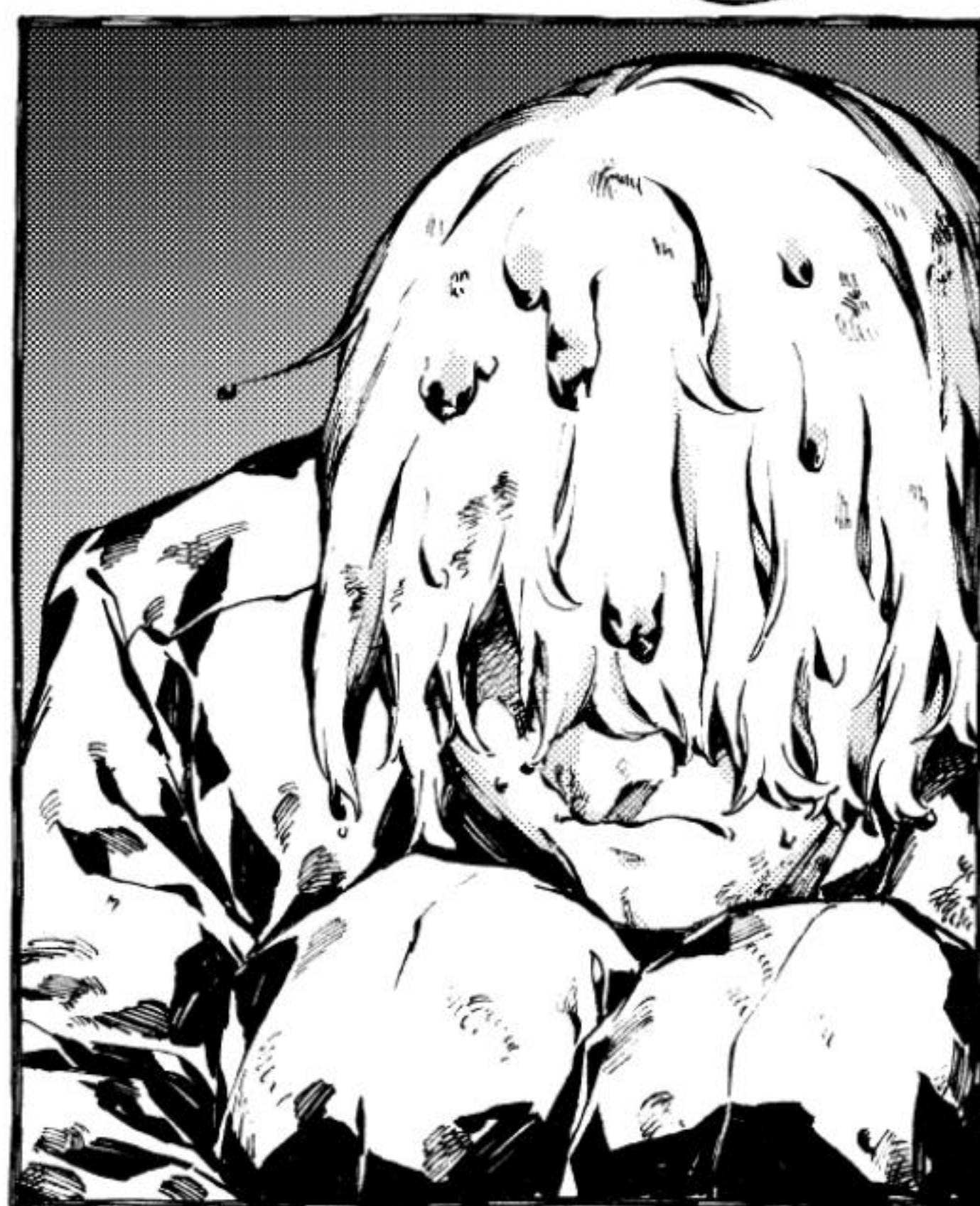


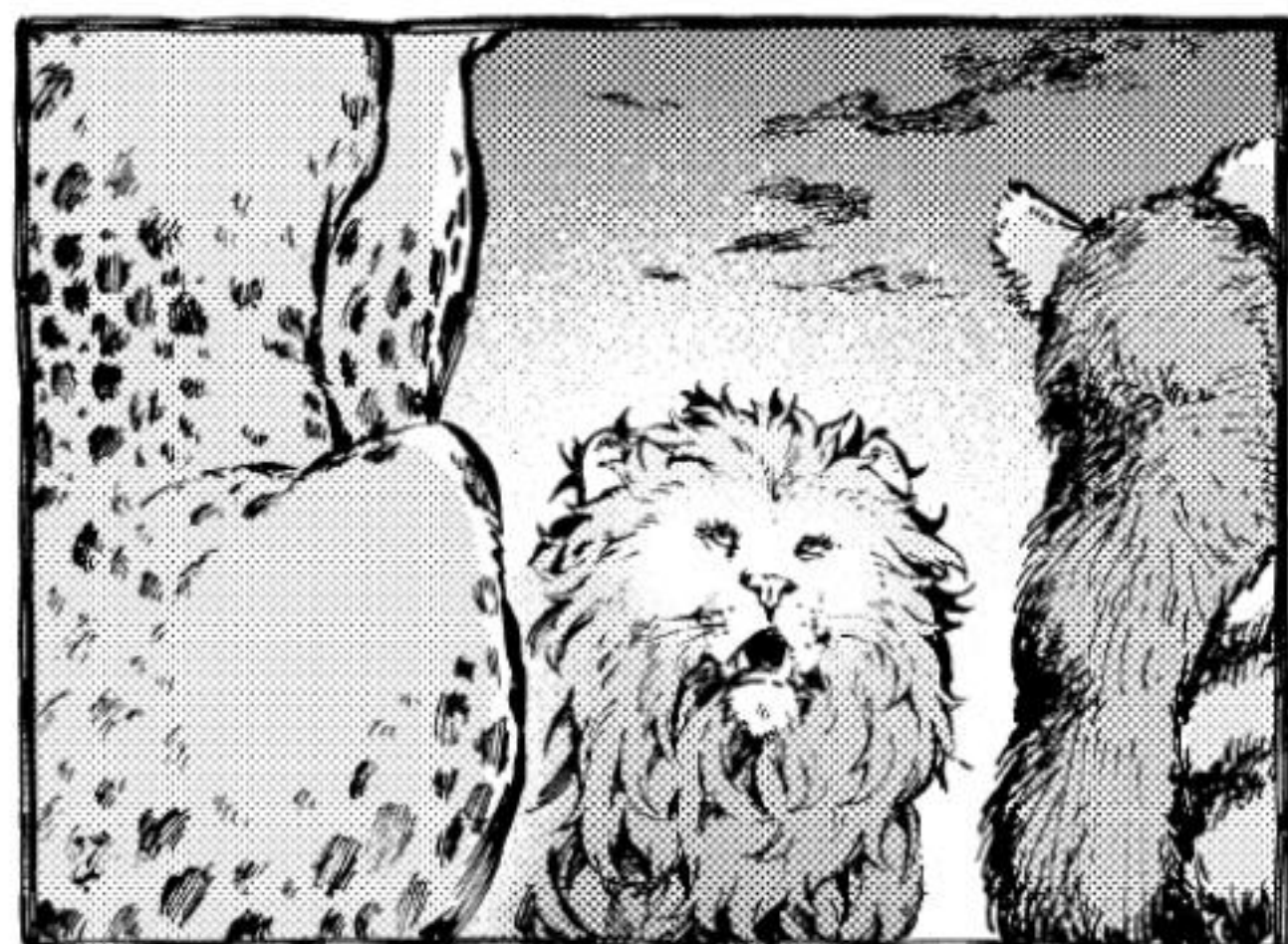


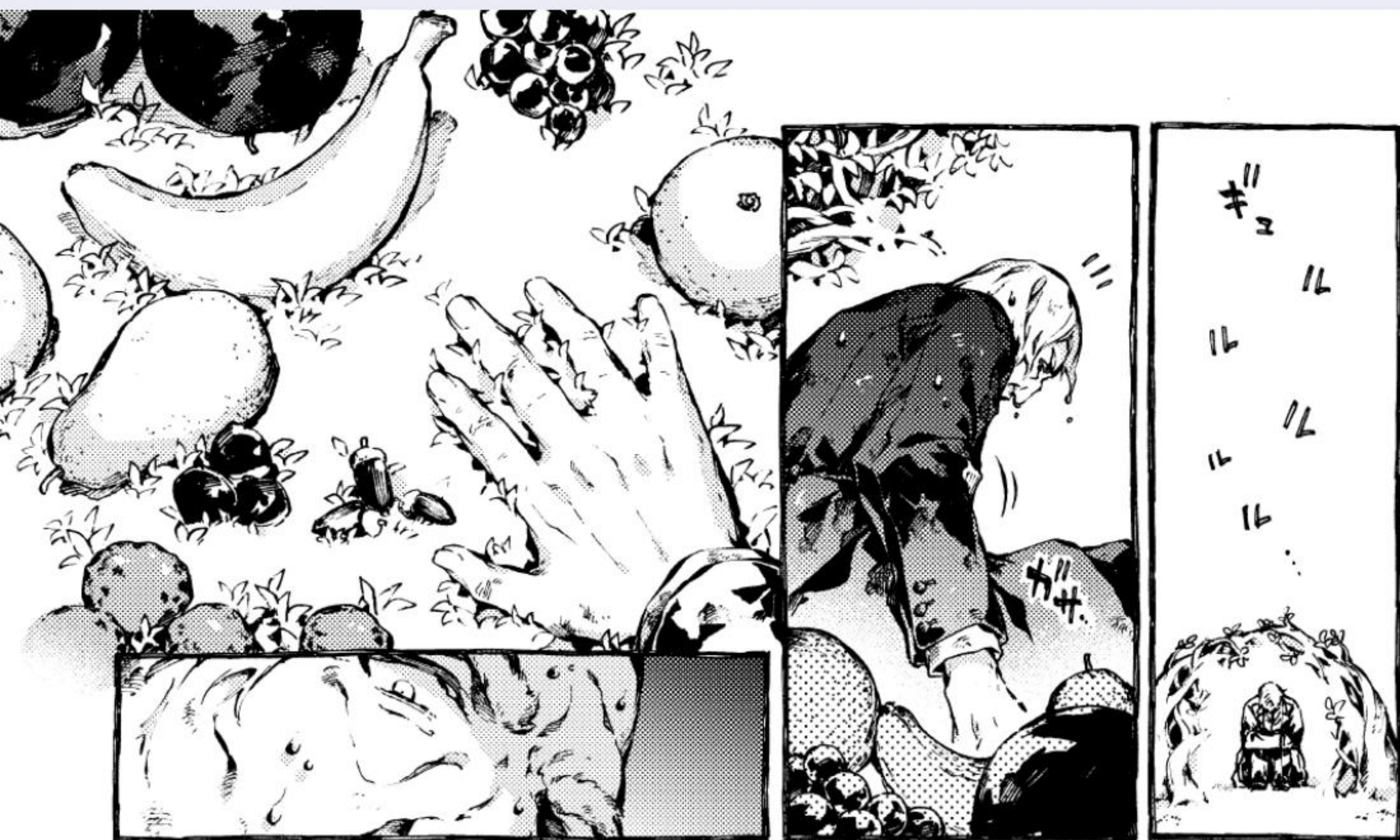






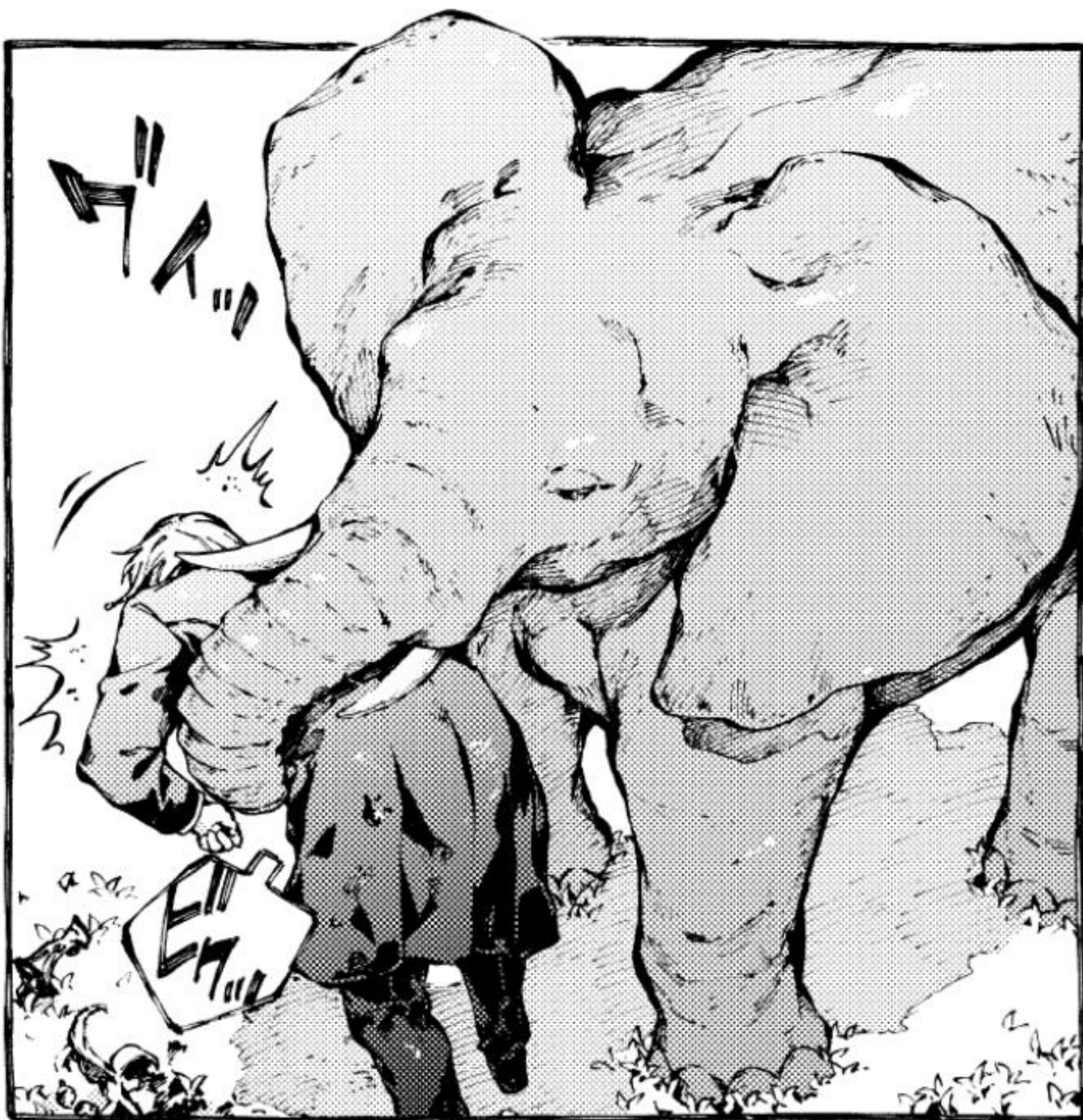
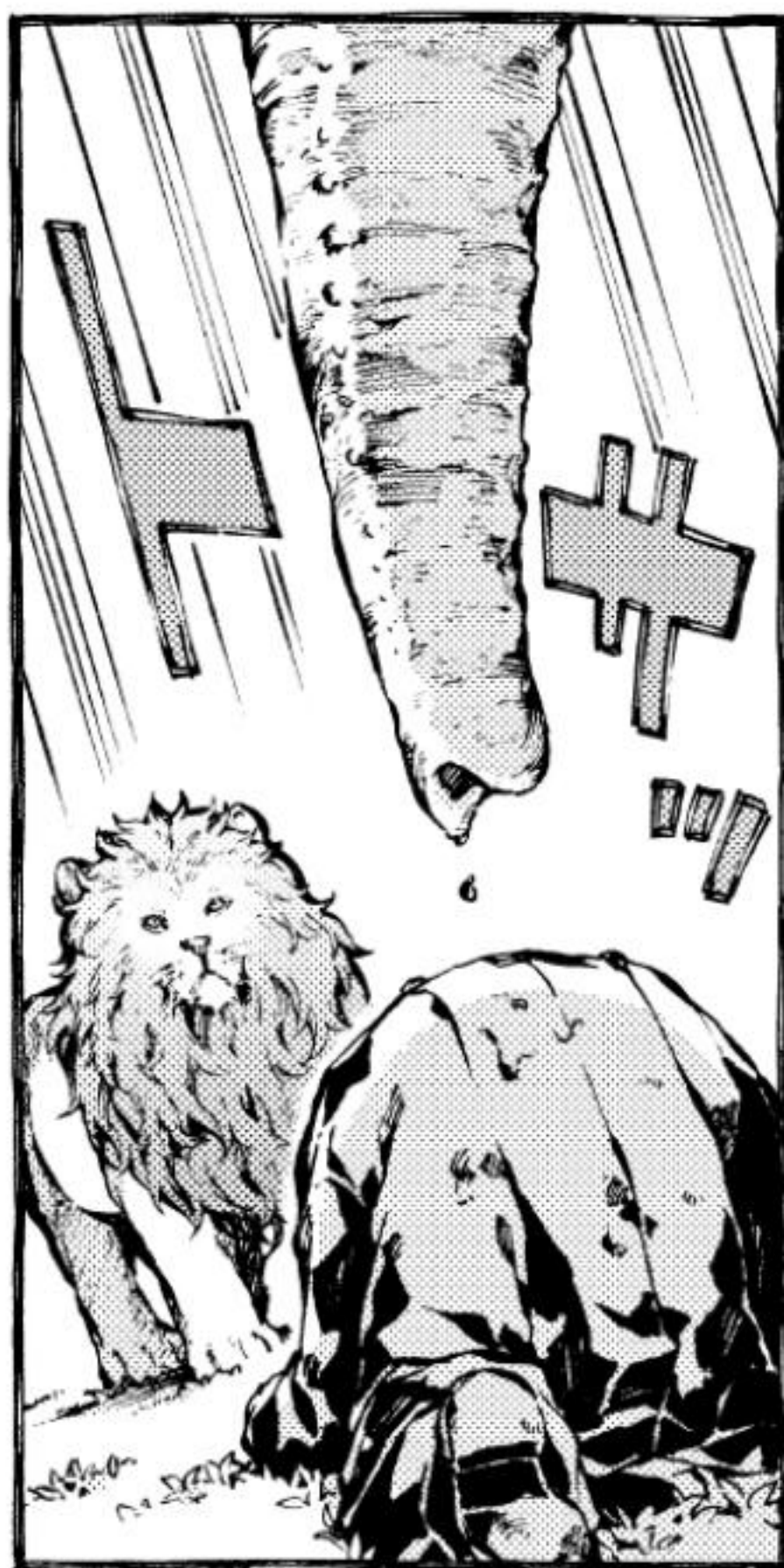








あの生き物を
連れてきなさい



お願いします
アスラン



その人を
怖がらないように
させる言葉を
かけてあげて
くれませんか？



何か

その――



それから

その人が
二度とここへ
もどって
こないように
する言葉を
言ってみて
くれませんか？



誰か
ほかの人間を
送ってよこすかも
しません

アスラン



もどって
きたがる
だろうか？

街灯から
もぎ取った鉄の棒が
街灯に育ったのを見て

ものすごく
興奮して
いましたから

もしかしたら――

わが子よ

それは
たいへん愚かな
考えだ

この世界は

これから
数日のあいだは
生命力に
満ちあふれている

わたしが
この世界に
生命を呼び出すために
歌った歌が
まだ空中にただよい

地中に
響いている
からだ

しかし

それは
長くは
続かない

だが

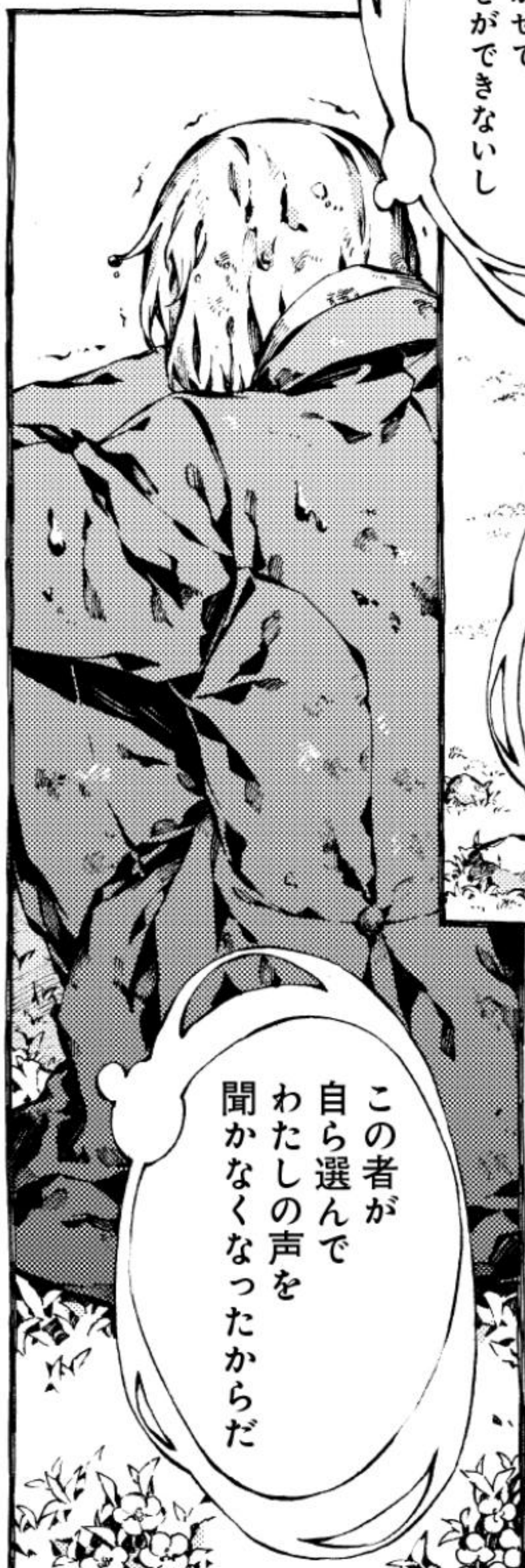
わたしはそのことを
この年老いた罰^{ばち}当たり^あに
言い聞かせて
やることができないし

この者の気もちを
楽にしてやることも
できない

この者が
自ら選んで
わたしの声を
聞かなくなったからだ

わたしがこの者に
話しかけても

この者は
ただうなり声や
吼え声を聞いたと
思うだけだろう







それを
与えてやろう